

資料紹介

豊後佐伯藩関係資料

河野松男氏収集文書類 (三)

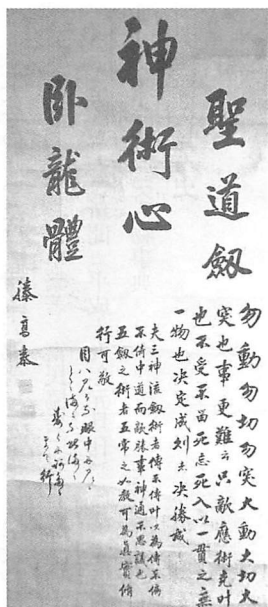
資料収集 河野松男

編集・解説 佐藤巧

今回は毛利高泰の書、久保田南崖画幅、秋月橋門書幅・書画幅、秋月新太郎書幅の六点を紹介する。

- 一、毛利高泰の書……………（劔術の心得）
- 二、久保田南崖画幅…………（おしどり越冬・月に落雁他）
- 三、秋月橋門書幅……………（明治四年・長寿の法）
- 四、秋月橋門畫幅……………（明治三年・葛飾県庁にて）
- 五、秋月橋門書幅……………（東京牛門にて）
- 六、秋月新太郎書幅…………（野高岳作・富士山）

一、毛利高泰の書幅 たかやす



聖道劔

神術心

臥龍體

藤高泰（落款）

勿動勿切勿突大動大切大

突也、事更難云只 應術克叶

也、不受不留死忘死入以一貫之無

一物也。決定成刻者決勝成

夫三神流劔術者、傳不傳叶以為傳。不偏

不倚中道 而 勝事、神通不思議也。

五劔之術者五常之如教、可為眞實脩

行可敬。

目は見るな、眼中に見て、

とどまるな、此まま

すくにあたる

まで行け

【読み下し文】

聖道剣 せいどうけん 神術心 しんじゆしん 臥龍体 がりりゆうたい 藤高泰 ふじたかやす

動くなかれ、切るなかれ、突くなかれ、大きく動き、

大きく切れ、大きく突くなり、事更ことごと云い難きは、只

術に应じて敵むかえば克かつこと叶かなり、受けず、留とどまら

ず、死は死を忘れ、以て一貫の無一物に入るなり、

決定けつじよ成る刻は、決して勝つこと成る

夫れ三神流剣術は、伝不伝を伝と為すを以て叶うなり

不偏不倚中道にして敵むかえば勝つ事、神通不思議也五剣

の術は五常の教えの如く、真実に修行為すべく敬うべ

し。

目は見るな 眼中に見て とどまるな

このまま すくにあたるまで行け

【語注】

無一物むいつぶつ無煩悩ぼんごうの無い心の境地

決定けつじよ疑ぎいない事 決けつまつている事

不偏不倚ふへんふいき偏へんらず、寄よりかからず

中道ちゆうだう中立の立場

五常ごじやう儒教で人が常じやうに守るべき道德 仁義礼智信

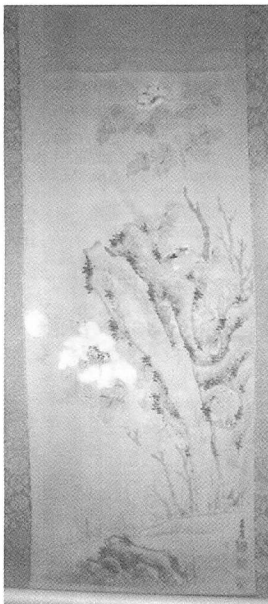
二、久保田南崖画幅

久保田南崖

佐伯藩士山崎太右衛門の次男。兄は山崎寿山、共に本

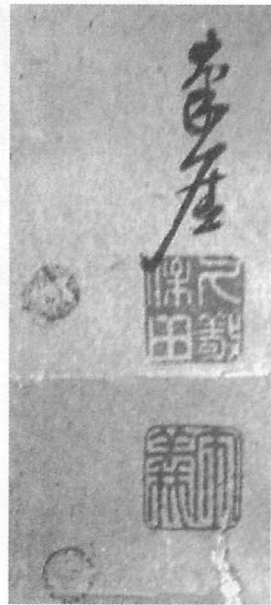
田侯の画師桜間青崖に学ぶ。

この四枚の画幅（絵画の軸物・画布）は一つの襖絵として春夏秋冬を表したものである。





久保田南崖の落款



三、秋月橘門書幅

この詩は、明治四年二月初め、静山居士の祝賀の宴で詠ったものである。

百歳曰上壽八十曰中壽六十曰下壽
 天所祐隆今
 躋上壽多矣其無溘焉七十里出跡三十里
 試把算子兼乘除而當未既及七十三其半身
 我之前途嗚呼曰否々急趨路士境徐步登岫樓徐
 步如何曰曰法自有飲食無誤節思慮不違及
 平心消日月優游送旦暮一年復一年徐々至
 百歲曰上壽唯 翁自會計
 靜山居士七十賀筵大年之歡此子時
 明治四年壬申二月初吉也 橘門劉伯起

百歳曰上壽 八十曰中壽 六十曰下壽 是以天所祐
從今躋上壽 互吉其無謬 來路七十里 前路三十里
試把算子筭 乘除即當矣 既能及七十 三十其半耳
或云前途險 予曰否々々急 趨蹶土塊徐 步登岫屨
徐 步法如何曰 其法自有飲食無誤 節思慮不過度
平心消日月 優游送旦暮 一年復一年 徐々至百々
歲々召上事 唯翁自會計

靜山居士七十賀筵席上賦此于時

明治四年壬申二月初吉也 橋門劉伯起（落款）

【読み下し文】

百歳を上壽と曰い、八十を中壽と曰い、六十を下壽と曰う、是を以て天の祐る所、今より上壽へ躋らんとす、互いに吉とするは謬り無きことなり、來たる路は七十里、前の路は三十里、試みに算子の筭を把る、乗除すなわち当たる。既によく七十に及び三十はその半のみ、或る人は云う前途險しと、予は曰う否否否急くなかれと、徐に土塊に趨蹶すれば 徐ろに歩みて岫屨を登れ、歩法や如何と曰えは、その法は自ら飲食誤り無きに有り、思慮を節し度を過ごさず、平心を日月を消し、優游と且暮を送れば、一年復

一年百々歳々に至り、百歳に召し上げること、ただ翁のみの（自分だけの）會計（得心）なり

靜山居士の賀筵の席上 此 于の時に賦す

明治四年壬申二月初め 書く也 橋門劉伯起

【大意】

百歳を上壽、八十歳を中壽、六十歳を下壽と言う。これらは天の助けがあればこそだが、私は今から百歳を目指して生きようと決心した。幸い、これまでの七十年間は大きな謬も無かった。この先は今までの半分三十年ばかりとソロバンにもあっている。ある人は前途は厳しいだろうと言う。そこで私は、いやいや急いではならない、年老いて土塊にでも走って躓くより、ゆつくりと歩いて頂上に行こう。ゆつくりと頂上に達する方法とはどのようなものだろうか。まず第一は正しい飲食が挙げられる。次ぎに雑念を払い、度を過ごさず、心穏やかにして日月を過ごし、ゆうゆうとして一年を明け暮らし、また一年と送れば百歳に到達するであろう。百歳になって仏様から召される事と思うが、これは他人は知らず、この年寄りだけの考えて得心している事なのじゃ。

この詩は静山居士七十歳の祝いの席で詠んだものである。明治四年（一八七二）二月初め、これを記した。

【語注】

上壽中壽下壽 長命の人を上中下に分けた分け方

算子 〓 そろばん

筭 〓 かずを数える

趨蹌 〓 足早に行きつまつく

岫巒 〓 山の頂

旦暮 〓 朝も夕も いつも

賀筵 〓 祝いの席 祝宴

秋月橋門

日州高鍋藩秋月侯の庶族、はじめ水筑龍と名乗る。日田咸宜園に学び佐伯藩校四教堂教授となる。明治二年葛飾県知事を勤め、明治十三年七十二才没。著書「好生問答」他、漢詩などの遺墨多し。劉は秋月氏の本姓、伯起は字名、橋門と号す。東京牛門に住んで牛門外史と称す。

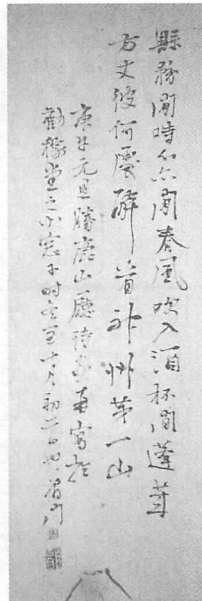
四、秋月橋門書画幅

縣務閒時心亦閒 春風吹入酒杯間 蓬萊

方丈彼何處 醉看神州第一山

庚午元旦勝鹿山廳詩画南宮於

勸稼堂之小窓于時冬至十月初二日也橋門（落款）



【読み下し文】

県務間けんむかん（閑）なる時心また間なり

春風吹いて酒杯しゅはいの間に入る

蓬菜ほうさいの方丈 彼は何処いずこに

酔よいて看みる神州第一の山

庚午元旦こうご かつしかさんちよう、勝鹿山庁かつしかさんちように詩画、

南宮勸稼堂なんぐうかんとくどうの小窓せうそうに於いて、時は

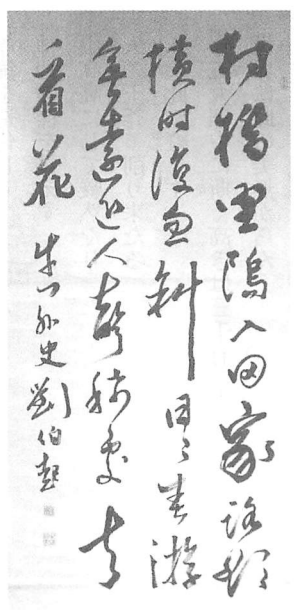
冬至十月初めの二日なり。

橘門たちばな（落款）

【大意】

（葛飾県庁の）県務が、今日はちよつと手が空いていて心も長閑である。春風が盃の中まで吹きいるような良い風情である。蓬菜（日本）にあるという幻想的な寺は、いったいどこにあるのだろう。酔って流れる富士は、さすが神州第一の山である。とひしひし感じる。

五、秋月橘門書幅



村橋野鴨入田家

路影積時復忽斜

日々春游無遠近

人聲称處者看花

牛門外史劉伯起（落款）

【読み下し文】

村橋そんきやう野鴨やおの田家でんかに入る

路影ろえい 時を積つんで復また忽たちまち斜なまめなり

日々ひび春游しゆんゆうすること遠近えんきんなし

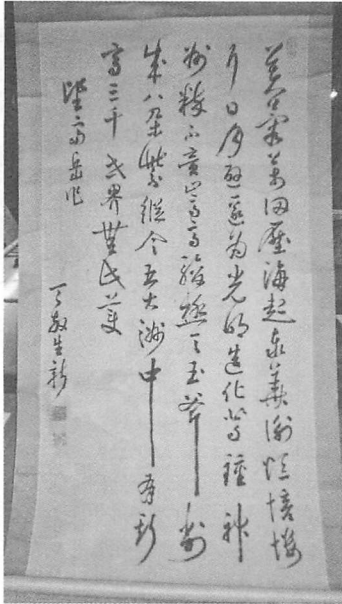
人声しんごうの称ところする処ところは 花はなを看みるあり

【大意】

村橋は自然豊かななかの部落に通じている。

遊び過ごしている間に、夕方になり 路傍の景が長い斜めの影を作っている。日々、あたこち遠く近くと遊びまわっている。みんながわあわああと褒めそやすような人声のする所に入つて看ると、そこには美しい花が咲き乱れている。

六、秋月新太郎（天放）書幅



芙蓉萬田壓 海起泰華例 恒培壤耳口

月照遂為光明 造化尊鐘 神妙粹不貢

山高高駭然 天玉斧削来 八朶此不縱

今五大洲中 有斯高三千 世界無此美

野高岳作 天放生新（落款）

【読み下し文】

芙蓉（富士山）は万田の庄

海より起こり 泰華の例なり

恒に壤もて耳口を培う

月は照遂して光明と為り

尊鐘を造化し

神妙の粹を貢えず

山高高にして駭然たり

天の玉斧 削り来たる

八朶此に縦ます

今五大洲中に斯く高きは三千有るも

世界に此の美無からん

【語注】

芙蓉ふよう 富士山のこと。

泰華たいか 泰山と華山。共に山の名。

照遂 照らし続ける

玉斧 天の神の持つ斧

八朶はちだ 富士山のこと。

【大意】

芙蓉に例えられる富士山は、美しいだけでなく広大な田畑を潤す大水源でもある。美保の松原あたりの海岸から裾野が立ち上がり、中国の五名岳、泰山、や崑山にも例えられている。

つねに小山などでもって、耳や口にあたる部分の山の姿を造成している。夜には月が山の姿を照らし、時の移るにつれて一つずつ美しく照らし出し、山全体は尊く巨大な釣り鐘のような形となる。

神州の美の粋は、ここに凝縮し決して潰える事はない。山は大きく高く峻厳然としていて、天神の玉斧で彫刻したかのように、八つの枝峰はすばらしい均整の美を呈している。

世界中にこのような山が三千とあるというが、富士の美をしのぐ山は決してないだろう。

秋月新太郎

秋月橋門の長男、日田咸宜園に学び、佐伯藩校四教室の助教となる。明治新政府に出任、兵部省から文部省に移り、文部省参議官、東京女子師範学校長を兼任、退職して貴族院議員となる。鎌倉湘南に別荘を構え「知雨楼」と称す。漢詩集「天放存稿」・「知雨楼詩存」他、漢詩や碑文などの遺墨多し。天放と号し、必山人と称す。

(編集部より)

このたび、秋月橋門の書幅四点の解説につきまして、元の原稿に無かった口語の「大意」を付け加えさせて戴きました。内容につきましては原稿作者には文責はありませんので御了承下さい。